

事務事業名	≪H23新規≫白根2号線整備事業 文化財調査事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	建設部		単位番号	2011- 7138																									
			所属課室	道路整備課		課長名	入倉隆士																									
			所属担当	道路河川担当		担当者名	古屋 桂																									
基本政策	基本計画体系	Ⅲ	うるおいと利便性のある都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目																				
政 策		11	道路網の整備		事業区分	01	一般	08	02	02	020	24																				
施策		18	生活関連道路の整備																													
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (平成23年度 ~ 平成25 年度)		法令根拠	文化財保護法第94条および99条																												
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 1. 事業の内容 平成22年度に試掘調査を行った結果、計画地内に埋蔵文化財の包蔵が確認され、23年度に記録保存を目的とした発掘調査を実施した。24・25年度で出土資料の整理や屋内調査、科学分析調査を実施し、報告書を作成する。 2. 事業費の内訳 屋内調査・発掘資料整理作業の賃金ならびに消耗品、科学分析調査委託費等					事業費の主な内訳 (24年度 決算見込) <table border="1"> <tr> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>2,240</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計</td> <td>2,240</td> </tr> </table>							項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)	委託費	2,240													計	2,240
	項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)																												
	委託費	2,240																														
		計	2,240																													

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	出土資料の飼料整理作業。
25年度活動予定	出土資料の飼料整理作業。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
開発事業等により影響を受ける埋蔵文化財包蔵地	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)	
発掘調査により、記録保存という形で遺跡が保護される	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
調査成果の公開や出土遺物等の公開活用により、市民の生涯学習の場や学校における教育現場での活用が可能となり、市民のふるさと意識や郷土愛の醸成に寄与する。	

⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア埋蔵文化財包蔵地の件数	件
⇒	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア埋蔵文化財包蔵地の件数	件
⇒	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア埋蔵文化財包蔵地が適切に保護された割合	%
⇒	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア歴史的・文化的背景を尊重したまちづくりが行われていると答えた市民の割合	%
	イ地域の文化財を守り、伝え、活用している自主的団体(NPO)等の数	%

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	2,365	1,232						
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	1,935	1,008	316					
	事業費計 (A)			千円	4,300	2,240	316	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2							
		延べ業務時間	時間	50	50							
		人件費計 (B)	千円	198	198	0	0	0	0	0		
	(A)+(B)			千円	4,498	2,438	316	0	0	0	0	
活動指標		アイウ	件	1.0	1.0	1.0						
対象指標		アイウ	件	1.0	1.0	1.0						
成果指標		アイウ	%	100.0	100.0	100.0						
上位成果指標		アイ	% %									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	道路計画に伴い、平成22年度に実施した試掘調査の結果を踏まえて文化財保護法94条に対応する事業として実施した。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	23年度の新規事業であり、現地において適切に記録保存が行われ、25年度の調査報告書公開によって、本事業は終了する。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	自分たちの生活しているすぐ近くにこんなものが眠っているとは思わなかった(CATV放送による反響や各種団体(学校教諭グループなど)への案内の際)

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☐ 取り組みしていない⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	事業の一部委託、測量の電子化等による人件費の抑制
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	事業の一部委託、測量の電子化等による人件費の抑制

事務事業名	《H23新規》白根2号線整備事業 文化財調査事業	所属部	建設部	所属課	道路整備課
-------	--------------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 道路改良事業に伴う、埋蔵文化財発掘保存となるが、古来からの史跡保存は将来への歴史の橋渡しであり教育関連施策とも整合する。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 市の宝物となる史跡調査保存になるので、公共事業として行なうのが妥当である。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 期間限定の3か年で行なう事業であり、発掘資料の保存と目的もしっかりしているので適切。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 教育委員会への業務委託によりコストも大幅に削減をしている。また、補助事業であり国の制度にのった運用をしている。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 白根2号線整備事業に伴う発掘保存事業のため統合できない。 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☐ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 文化財保護法に基づき行なわなければならないため。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 既に発掘調査をしており、資料整理は必要不可欠。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 教育委員会委託することによりコスト削減を既に図っている。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 教育委員会においても、最少人数で行なっている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 市の宝物となる史跡調査保存になるので、受益者は市民となるので公平公正。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	文化財保護法に基づく事業であるので、しっかりと関係者と協議を進め進捗を図ること。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑩																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					